

特集

動き始めたファンド活用

農林漁業者の6次産業化を

資金面から新たな形で後押しする

農林漁業成長産業化ファンド。

ついに、第一陣案件となる出資先が決定。

北の大地を活性化させる

6次産業化事業体のひとつをレポートする。



第一陣案件のひとつ
株式会社オチガビワイナリー代表の
佐沢さん(左)と専務の落さん(右)

1次産業と2次・3次産業のバリエーションをつなぎ、農山漁村地域で、地域の活性化や雇用創出につながる新たなビジネスを創出する取組を支援するために生まれた農林漁業成長産業化ファンド。

農林漁業者が、パートナーとなり得る2次・3次産業事業者とともに資本金を拠出する6次産業化事業体に対して、最長15年にわたる出資と経営支援を行う。新しい6次産業化の支援の仕組みである。

このファンドを運営する農林漁業成長産業化支援機構(A F I V E)が発足したのは平成25年2月1日。その後、各地域・各分野で資金面は

もちろんのこと、経営指導や事業展開での支援を行うサブファンドの設立を続けてきた。サブファンドは、設立または準備中を含め9月末の時点で、全国に31。資金総額は580億円に達する。

9月には、このファンドの第一陣案件として、北海道余市町のワイナリー事業、千葉県富里市の植木・盆栽の輸出事業、沖縄県与那国町の車エビの販売事業という3つの出資先が発表された。

その事業内容は？ 出資確定の経緯は？ 15年先に向けてのビジョンは？ 北海道余市町のワイナリー事業からのレポートをお送りする。